

# 令和7年度第1回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 令和7年11月18日（火）19：00～20：15

◆会場 伊勢市役所本庁舎東館5-3、5-4会議室

◆出席委員

林 孝昭委員、鈴木 まき委員、田尻 優子委員、筒井 琢磨委員、田中 真理子委員、  
河井 英利委員、藤原 寛仁委員、大村 佳之委員、濱口 真理子委員、村田 仁美委員、  
東 絵美委員、太田 幸吉委員、岡野 こころ委員

◆欠席委員

池山 敦委員、北出 学委員、谷 朋恵委員、富内 伊佐雄委員

◆出席職員

情報戦略局長、企画調整課長、同課副参事、同課主幹兼係長、同課主査、同課職員、  
総務部参事兼職員課長、広報広聴課長、市民交流課副参事、健康課副参事、  
健康福祉部参事兼福祉総合支援センター長、子育て応援課長、子ども発達支援室長、  
産業観光部参事兼商工労政課長、商工労政課副参事、農林水産課副参事、  
産業観光部参事兼観光誘客課長、観光振興課長、都市整備部次長兼監理課長、交通政策課副参事、  
教育委員会事務局参事兼教育メディア課長、社会教育課長、教育委員会事務局参事兼スポーツ課長、  
教育研究所長

◆議事概要

※以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

## 1 第3次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン各取組の進捗について

### （1）資料1に基づき、第3次共生ビジョンの進捗状況（令和7年9月末時点）について説明

- ・取組の実績（成果指標）の進捗状況を「A：達成の見込み」「B：未達成の見込みだが、一定の進捗あり」「C：未達成の見込み」の3段階で評価。（中間時点で集計ができない指標は「-」表記）
- ・全59件の指標のうち、約68%の40件が「A」評価、約25%の15件が「B」評価、「C」評価は0件と、一定の進捗が図られている。

### （2）委員意見・質問

- ・現時点で集計ができない指標について、懇談会委員にはどのタイミング共有されるのか。  
→1年遅れでの共有となる。記載できている前年度の実績値が最新値であると捉えてご覧いただきたい。
- ・「伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立」について、繰越利益剰余金の増加要因は。  
→実績値が目標値を超えていることから、目標値を再検討していきたい。  
※補足：概ね計画どおり運営されているなか、修繕が計画より発生していないことから、目標値以上に繰越利益剰余金が増加している。一方で、施設の老朽化が進んでいることから、大規模な修繕が発生するリスクもあるため、目標値の修正は慎重な判断が必要。

- ・「伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興」について、伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数の国籍の内訳は。  
→環境省の公表資料に記載がなく、後日回答としたい。  
→（後日回答）環境省に確認したところ、内訳の集計は実施されていない。
- ・「伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興」について、自然観察会の実施は下期に偏っているという理解でよいか。  
→ご理解のとおり。ほとんどが下期での実施を予定している。
- ・「鳥獣被害防止対策」について、鳥獣被害額の伊勢市における算出方法は。  
→聞き取りなどにより、面積当たりの作物の被害額から算出している。  
※補足：地域の代表者等への被害状況の聞き取りにより被害面積を推計し、それに関係団体等から得た単位収量や農作物基礎単価を乗じて算出している。  
→成果指標の算出方法の記載について、「連携市町での鳥獣被害額の合計」だけではわかりづらいため、記載の工夫を。

## 2 圏域の現状と課題（懇談）

- ・休日夜間応急診療所の利用数の減少は、かかりつけ医の日頃の診療の成果とも捉えられる。重要なのは適時に受診できる診療体制の維持。また、70歳代の医師が休日・夜間の診療にあたっているなど、医師の高齢化が進んでおり、休日夜間応急診療所で持続可能性や維持・運営方法は検討が必要。
- ・人材不足が深刻化する中、介護現場ではインカムの使用やAIでの記録作成など、ICTを活用した業務効率化を進めている。
- ・最低賃金の上昇による負担は、中小や個人事業主ほど負担が重たい。北勢地域、南勢地域一律ではなく、それぞれの経済状況に応じた賃上げが必要ではないかという声もある。人材不足のなか、高齢者にも頑張ってもらっている一方で、若者が育成する前に離職し、市外・県外へ出ていくことが増えており、食い止めていきたい。
- ・令和5年から、職員募集への応募者が急激に減少し、特に高卒年代からの応募が減少するなど、新規採用職員の不足が課題になっている。働き手がないと、事業が回らず支店を閉めざるを得ない状況にもなりかねない。
- ・米価格の高騰については、農家の収入増につながる側面もある。地元でとれたお米を食べていただけのよう、消費者の負担と農家の利益のバランスが取れた価格に落ち着ければ。
- ・伊勢市内では皇學館大学からの入社が大変貴重な人材になっている。
- ・公共交通については、人口減少により運行維持が困難な地域が増えていることが課題。維持コストの増加や運転手不足もといった課題も顕在化している。
- ・伊勢市内においては、コロナ以降、観光客の回復に伴い公共交通の利用者数も回復しているが、コロナ前と比較すると約3割減となっている。
- ・お試し乗車券については、新規利用者の開拓につながっていたように感じる。事業所として、わかりやすいバスの利用方法の周知も検討していきたい。

- ・鳥羽市は大きな病院がなく、公共交通も不足している。また、何をするにしても市外へ出かける市民が多いことも課題と感じている。
- ・志摩市では人口減少などにより、商店街がシャッター街になっている。一方で「小規模企業・中小企業振興基本条例」を作つて商工業振興の取組を進めている。
- ・志摩市内の真珠取り出し体験に多くのインバウンド観光客が参加しており、事業者は助かっている。これらの方に滞在・回遊してもらえる仕組みを検討中。
- ・2028年度に志摩高校が新規生徒の募集を停止予定であり、通学の足として公共交通の重要性がより高まるのでは。
- ・伊勢市のお木曳行事でも人材が不足しており、志摩市民にも行事参加の声がけがある。
- ・南海トラフ巨大地震もあり、防災・減災の取組が喫緊の課題となっていると感じている。
- ・度会町では多気町などと一緒に再生可能エネルギーの導入などを推進。その一環として、株式会社を設立し、令和8年4月から両町の公共施設へ電力を供給予定。将来的には周辺自治体へも供給し、地域経済の活性化や雇用創出、災害時のエネルギーにつながれば。
- ・医療面では、令和8年度に町営診療所を開設する準備を進めている。
- ・交通面では、多気町・大台町と連携したライドシェアの実証実験や、休日の使用しない公用車を活用したカーシェアの検証を進めている。
- ・大紀町でも、瀧原宮でお木曳行事が行われるため、農林漁業体験民宿等と連携した誘客のプランを検討中。
- ・廃業する小規模事業者が増える中、6商工会合同で創業セミナーを開催するなど、創業者支援に力を入れている。また、中小事業者の販路開拓支援として、商談会への参加支援を行つてはいるが、商談では生産数量などの関係で取引につなげていくことが難しい。スタンプラリーなど、中小企業の商品を知ってもらうための取組を進めている。
- ・三重テラスでふるさと納税感謝祭を開催するなど、ふるさと納税の取組を進めている。
- ・南伊勢町内の県道でクマが目撃され、クマアラートが発令されるなど、対策が必要な状況。
- ・全国豊かな海づくり大会が盛り上がった。不漁の原因であった黒潮の大蛇行が収束したとの話もあるため、基幹産業である漁業が活性化していくべき。
- ・明和町では、宿が少なく宿泊が課題となっている。
- ・人口減少は比較的緩やかであり、子育て世帯も多いことから、地域の自然を活かした体験会など、子ども向けの取組を実施している。
- ・ふるさと納税では、車などインパクトのある返礼品を取り入れるなど、取組を進めている。
- ・式年遷宮に向け、地元自治体と調整しながら道路整備や観光PRに取り組んでいければ。
- ・度会町でもクマの目撃情報があった。緊張感が高まっている。
- ・式年遷宮で観光客も増えるため、伊勢神宮の参拝者を熊野古道など他市町へつなげていきたい。
- ・皇學館大学としては、伊勢志摩定住自立圏共生学が11年目となるなど、地域人材の育成を進めている。令和9年度からはビジネス系のプログラムを強化していく予定。